


# 高知カツオ県民会議 第一回カツオ消費・漁業分科会 議事録

|   |   |
|---|---|
| 日 時<br>平成29年5月17日(木)  | 場 所<br>土佐料理 司 高知本店  |
| 出席者   |   |
| 出席者<br>(敬称略)  | リストを別表で添付<br>座席   |
| 副座長<br>中田   | 土佐魚類 森国<br>土佐魚類 本山<br>土佐魚類 三浦<br>高知広告センター 松岡<br>奥代  |
| 座長<br>中村  | 石田事務所 高知県 大内<br>岩崎<br>高知県 梶<br>工科大学 浜田<br>青年会議所 水谷<br>高知新聞 福田<br>エスワン 石川<br>経済同友会 大熊 泉<br>大熊 平<br>県漁連 松澤<br>サニ- 眞鍋<br>旭食品 福島<br>旭食品 安部<br>サニ- 野町<br>明神 明神<br>新生丸 松下<br>かつお組合 松田 |
|  |   |

## 本 日 の 議 事

1. メンバー紹介
2. 活動方針について討議及び意見交換
3. 次回について

## 議 事 内 容

### 1. メンバー紹介

・出席者各位より自己紹介

### 2. 活動方針について討議及び意見交換

(1)カツオ消費・漁業分科会の活動方針についての確認を行った

- ・消費と漁業、はじめと最後についての役割の組み合わせであり、広い考えが必要である
- ・消費については、消費者の消費行動への指針のようなものを提案できればいいのではないか
- ・漁業については、それぞれの仕事異なる中で意見を出し合っていきたい

(2)活動予定

- 中田： 現在、考えている活動としては、7月1日での野市小学校での小学生にカツオの勉強を続けてきた活動があり、それを紹介させてもらった。また、10月の佐賀の戻りカツオ祭りでは何か分科会と絡めた活動ができないかを検討している。皆さんの意見を聞きながら、活動を取り入れていきたい
- 高知近海でもMELを取得している分野もあり、資源の扱いに知識を深めていくためにも6月の会議では、このあたりの勉強会を行っていきたい。
- 単にシールを貼るといふことだけでなく、普及するための講義や議論ができれば面白いだろう。
- 中村： そういふことがあるということを知ることが大事であり、これを消費者にどうやってつなげていくができないと価値を認めてもらえない。この勉強会をしていきたい。

(3)意見交換

中村： 今のカツオ消費の在り方、旬を問わずいつでも食べられる環境について、消費者のニーズ、鮮度保持の技術力もあるが、当たり前になり過ぎて正しい価値を伝えられていない。南太平洋で巻き網漁で大量に獲っている人たちにも、生活があり、漁業や消費の在り方も考えて発信や、消費者との接点をいかした啓蒙活動を行っていきたい。

エスワン： カツオに売上の多くを依存するような状況があり、カツオの売り方にも問題がある。カツオの価値を上げるために、流通、生産者、卸が力を合わせていくことが大切なことだと感じる。味の素といったダシメーカーから、カツオに対する別の側面で教えて頂けることもあると思われる。何らかの形で検討していきたい。

明神： カツオが年々獲れなくなっている状況で、日本国内でも一本釣りや巻上げがある。MSCや消費者へのカツオ漁法への理解や価値を深めていくことが必要であり、欧米でもMSCへの認識も広がっているが、日本ではそうならない。10月に黒潮町で14回目の戻りカツオ祭りがある。いろいろなつながりでお力添え頂きたい。

### 議事内容

大熊： 製造メーカーの立場で、年々、量も質も値段も変化し、海水温の影響から脂ののりも落ちている。トロカツオと呼ばれるものも少なくなっている。生も時期が遅れているような状況で、仕入に関して非常に苦労している状況であり、いろんな知恵を借りていきたい。

魚類： 中央市場のセリ人の立場でやっている。近海から上がって安くなっているが、一般の消費者の方には近海のカツオだからといってその良し悪しが分かっているわけではない。それを量販のバイヤーにこちらから提案していけるようにするにも、市場で取り扱う魚が増えるようにならなければ。量販には安いといいという考えもあるだろうが、高くても何百円かの違いで揚がったばかりの魚がある。釣って帰ってきたカツオを少しでも価値あるものにするには、その後の手入れで差が出るので、カツオ船の方にももう少し手入れをしてもらいたいといったことも分かってもらいたい。

中田： 漁業者、仲買、小売りが一同に集まって話し合う場は初めてかもしれない。カツオの価値を上げるような意見交換がこれまでなかった。この会で活発な意見交換期待する。

中村： 今のままだとウナギやマグロと同じように御馳走のようになってしまうだろう。いいカツオにはその価値をつけた伝え方としていかなければならぬという役割もある。消費漁業分科会として、急いで答えを出す必要はないと考えている。業種も違うメンバーでまずは現状認識を揃えていくことも重要であり、分科会の最初の数回はそれに使いたい。いろんな意見をただまとめて一つの意見にするのではなく、どうしたらいいかを討議していきたい。3月には分科会として何らかの提言をできるように進めていきたい。

高知県： 資源保持について、カツオ会議が国際交渉の会議等の場面で応援や後押しができるような形でやっていっていただけるように支援をしていきたい。

### 3. 次回について

アンケート形式にて希望日、時間帯等でのご意見を問いかけてさせていただく

以上